

1999. 7. 1

循環器・呼吸器病センター

だより

第5号

ごあいさつ 総長 竹内成之

盛夏の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

去る6月9日、秩父郡市医師会の先生方と医療連携に関する協議会を開催させていただきました。当日は、多くの先生方に御出席いただき、また、貴重な御意見を頂戴し、誠にありがとうございました。

さて、このセンターだよりにつきまして、本年度から四半期に1回の発行を目指し、今まで以上に先生方との連携を密にしたいと考え、今回の発行となりました。

今後とも、御指導くださいますようお願い申し上げます。

放射線科 院長 星 俊子

超高速CTを導入して

放射線科 院長 星 俊子

平成11年4月から、当センターでは超高速CTが稼働を開始しました。超高速CTは循環器領域の診断を目的に開発されたCT装置で、X線発生の方法が通常のCTとは異なるので、一断面0.1秒という非常に短い時間で撮影可能です。また、心電図に同期させた撮影が可能なCTはこの装置のみです。これらの特長を生かし、大動脈全長などの広い範囲を短時間で撮影可能な他、心臓では動きのアーチファクトのないCT画像を得られ、また、心電図同期を用いて任意の心時相の画像が撮影できます。このように循環器疾患の診断に大いに威力を発揮します。

本装置は、日本国内では主に循環器を専門とする27医療機関で使用されていますが、埼玉県内では初めての導入です。

虚血性心疾患では非侵襲的な冠状動脈の評価を、弁膜症では弁の形状及び心機能の評価・心内血栓の有無を、心筋症では心筋形態と心機能の評価を、先天性心疾患では形態的な評価を行うことができます。形態的な評価は、時に3D表示をして理解しやすくすることを試みています。大動脈解離、大動脈瘤などの大動脈疾患や肺動脈塞栓症などの肺動脈疾患でも従来のCTより診断能が上がっています。患者さんに対し、造影剤の静注のみ、という比較的少ない侵襲でさまざまな情報を得ることができることから、心臓カテーテル検査をはじめとする他の循環器検査とどのように組み合わせ、どの検査が省略可能か今後再検討していくこととなります。

また、カルシウムスコアの計測というこの装置独自の検査法があります。これは造影剤を用いない心臓の単純CTを撮影し、その画像から冠状動脈の石灰化の程度をスコア化して、定量評価するものです。このスコアは冠状動脈の動脈硬化の程度を表しており、将来の虚血性心疾患の発生を予知できるといわれています。検査自体は、心電図の電極をつけて装

置の寝台に横になり30秒程の胸部の単純CT撮影のみで終わる大変侵襲の少ない検査で、造影剤の静注なども必要ありません。

アメリカ人19,000人以上のデータ集積から年齢・性別ごとのスコア値と虚血性心疾患の発生の危険度が発表されており、アメリカでは、信頼性のある検査としてAHA (American Heart Association) でも推奨されている検査です。日本国内では設置台数が少ないことから、現在まで日本人の同様なデータの発表はありませんが、冠状動脈の石灰化の存在は動脈硬化の存在を意味するのですから、人種間の差があったとしてもスコア測定の意義は大きいと考えます。無症候で突然発症する心筋梗塞は、しばしば致死的なことがあります。このような心筋梗塞症の危険度を侵襲の少ない検査でスクリーニングし、危険度が高い場合は、適切な更なる検査と治療を行うことで、致死的な心筋梗塞を回避することができることは大きな意味があります。

カルシウムスコアの計測を非定型の胸痛患者の最初のスクリーニング検査として、あるいは、現在症状は無いけれど虚血性心疾患のリスクファクター（家族歴、喫煙、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧）があり、虚血性心疾患が心配な患者のスクリーニング検査として、有効に使用していきたいと考えています。

このように特徴のある優れた装置を有効利用していくために、当センター受診中の患者さんだけでなく、検査のみの目的で御紹介いただいた患者さんにも対応していきたいと考えています。

検査のみ御依頼の場合は、あらかじめ電話で予約していただければ、初診当日に検査が可能です。

検査時間：月～金 午後1時～3時

連絡先：048-536-9900

放射線科 院長 星 俊子